
狩人

古尾 光

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

狩人

【NZコード】

N11801

【作者名】

古尾 光

【あらすじ】

ある狩人が森で言葉を話すつざぎに出合つ

狩人が森で狩りをしていると、もしもしと小さな声で話しかけられた。

「人などいない森だ、警戒しながら周りを見ていると白いウサギが足元にいた。」

「カリウドさん、カリウドさん。美味しい木の実があるところを知つてるよ」

ウサギがしゃべったことに驚きはしたが、木の実が取れるのはうまい。

「いっしきっしき」

さすがにウサギの足は早く追い付くのが精一杯だ。

追いかけてこちらも疲れ始めた頃、周りの藪がガサガサと鳴る。

ガルル、と低い唸り声。虎だ。

「あぶない、あぶない。いっしきっしき」

疲れていたこともあり素直にウサギに従つて着いていく。ザザツ、という葉の擦れる音と同時に足に鈍い痛みが走る。落とし穴だ、小さな穴だが俺をこけさせるには十分だつた。しかし、足の痛みはそれだけではなかつた。蛇だ、しかも猛毒を持つ毒蛇が足に噛みついていた。

「できた、できた」

逃げたはずのウサギが戻つてくる。

「お前がやつたのか」

「私達はお前たちの真似をしただけだ」

さつき現れた虎が説明をする。虎も共犯だつたのか。

「餌で誘い、誘導し、穴に落とす。全てお前がやつたことだ」

毒のせいか意識が薄れ出す。動物達が鳴きながら身体をくねらしたり、飛んだりしている。獲物である動物に狩られるとは…、無念だ…

「ウサギよ、この者は最後無念そうしてていたがなぜだ？」
「なんでしょう、彼らはこうすれば、この者は神様のところ行く
のだ、幸せだろう、と言つてましたけど」

「よくわからないな。ところで神様とはなんだ？」
「腹のことじゃないんですかね、食べてましたし」

「食べられて、幸せなのか。人間とはわからん

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1180i/>

狩人

2010年10月16日09時24分発行